

宮崎兄弟資料館だより

2015/09/30

生家のかやぶき屋根のふき替え工事をしました！

宮崎兄弟の生家施設が開館してから23年目を迎えた今年、生家のかやぶき屋根のふき替え工事を行いました。これまで部分的には行ってきましたが、「総ふき替え」は今回が初めて。開館当初の生家の姿を御覧いただけます！



○15～20年に一度の大きな工事

宮崎兄弟の生家、味噌醤油蔵、資料館から構成される「宮崎兄弟の生家施設」は、郷土の先覚者である宮崎兄弟の功績を顕彰するとともに、荒尾市と中国との友好のシンボル施設としての活用を目的としています。宮崎兄弟の生家の復元整備と資料館建設により平成5年に開館したのですが、以後、生家の屋根のふき替え工事は痛みのひどい部分に茅をさすなど、部分的なものでした。

しかし、開館から22年が経過したことで、屋根全体の茅の量が減り、大雨などによる被害が懸念されるようになりました。そのため、今年度生家のかやぶき屋根の総ふき替え工事を行うことになりました。

○かやぶき屋根とはどんな屋根なのか？

生家の屋根のように、昔の家の多くは「ヨシ」などの植物を屋根の材料として使っていました。現在では瓦屋根は当たり前ですが、江戸時代に瓦が使えるのは限られた身分の家だけでした。

さて、かやぶき屋根の材料となる「ヨシ」などの植物は刈り取ってそのまま使うと水分が多く、すぐに腐ってしまいます。そのため、植物が枯れる冬に収穫し、十分に乾燥させてから使用します。さらに、耐久性を高めるために燻(いぶ)すこともあります。この植物の屋根は、

- ①夏の暑いときには太陽の熱をやわらげ、冬の寒いときには家の中を温めてくれる
- ②風の通りが良い
- ③家の中の音が外にもれにくい

など、とてもすぐれたものでした。かやぶき屋根はイギリスやドイツなど世界でも広く見られ、日本ではすでに縄文時代くらいから作られていたと考えられています。しかし、時代の変化や「ヨシ」などの材料が少なくなったため、今ではほとんど屋根として使われることはなくなり、屋根をつくる技術を持つ人も減っています。

○文化財を守り、伝統技法を継承する

材料・人材ともに減少しつつある現状を考えると、今回のふき替え工事は、宮崎兄弟の生家という文化財を守り、次代に継承していくということに加え、かやぶき屋根という伝統やその技法を残すという意味でも、とても重要なものであったと考えられます。荒尾市では、今後も定期的なメンテナンスを行い、文化財と伝統技法を守り継承していきます。

新所長就任について

4月から「荒尾市宮崎兄弟の生家施設」の所長になりました松永豊美です。

前任の安田所長は、荒尾市が誇る偉人・宮崎兄弟の実績を海外に広められ、宮崎兄弟のグローバル化に貢献されました。その後任として、20年の歴史を持つ同施設の所長にとのことをお話をいただいた時、身の引き締まる思いがいたしました。

しかし、丸十年にわたるボランティアガイドとしての経験を生かし、母親視点・女性視点を大切にしつつ宮崎兄弟の偉大さを内外に発信して行きたいと考えています。

また、ボランティアガイドとしての活動の中で様々なご協力をいただいた宮崎家の皆様方や宮崎兄弟ゆかりの玉名市天水町をはじめ、飯塚市等の市内外の方々とも連携しつつ、たくさんの皆様から親しまれる「宮崎兄弟の生家施設」にしたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

宮崎兄弟の生家施設所長 松永豊美

宮崎兄弟研究事業 —経過報告③—

荒尾市教育委員会では、平成26年度～平成28年度の三カ年にわたって、宮崎兄弟に関する研究の一層の促進を目的とする「宮崎兄弟研究事業」に取り組んでいます。

今年度は、

- ①宮崎兄弟の生家所蔵・寄託史資料の目録整理
 - ②宮崎兄弟に関する研究
- の二つの課題に取り組んでいます。

〔史資料の目録整理〕

① 宮崎民蔵と滔天のひ孫にあたる宮崎芳氏が所蔵の宮崎兄弟及びその子どもたちにまつわる史資料の目録作成とその中身について、荒尾市教育委員会は約一年にわたり調査を行ってきました。史資料の数はおよそ440点。特に宮崎民蔵とその子世民・世龍・貞ゆかりの資料が大半を占めていました。

民三関連の資料は、宮崎兄弟資料館でも比較的多く見ることができますが、今回確認された史料の中には民蔵直筆の土地関連の史料もあり、これらは今までその存在すら知られていなかったものでした。また、民蔵の次男・世民については、世民自身が記した『宮崎世民回想録』にあるように、父民蔵同様、日中関係のために活動した人物として知られています。彼の遺品の一部は9年前に荒尾市に寄贈されており、毛沢東をはじめ、廖承志（りょうしょうし）や何香凝（かこうぎょう）、孫平化（そんへいか）など、戦後中国の中核になった人物と世民の関係を物語る史料が数多く確認されていました。ところが、今回芳氏から依頼を受けた史料には『回想録』で世民が語っていたもののこれまで確認出来ていなかった世民の活動を裏付けるノートや手帳、写真などが含まれていました。特に写真が大半を占めており、世民が戦後日中友好をめざす活動の中で目にした風景や出会った人々が写っていました。写真の裏にはどこで、いつ撮ったものなのかも記されており、世民の几帳面な性格をも伝えてくれます。

さらに、民蔵の三男・世龍の遺品からは、世民とは別に、報道の分野から中国の要人たちと接触し、活躍したことを示す勲章や手紙が、長女・貞の遺品からは、彼女が「折にふれて」と題し記したノートが発見され、彼女の目から見た父・民蔵の姿や大逆事件などの歴史的出来事などが描かれていました。

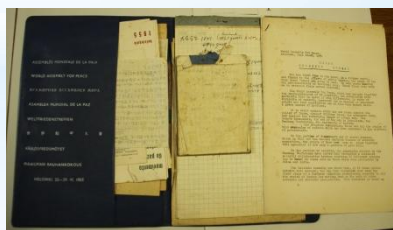
これらの史資料は宮崎民蔵だけでなく、その子どもたちが宮崎家という家に生まれ、どのように生き、活動したのかを示す貴重な品々です。これまでに明らかにされていなかった宮崎家の新たな歴史の一面を伝えることは非常に意義深いものであると考えられました。そのため、この調査結果の一部を企画展として公開する予定です。

〔宮崎兄弟の研究〕

②今年度二年目を迎える宮崎兄弟研究事業は、最終年である来年度に準備作業に入っており、最終的には報告書として発刊する予定です。この報告書では、これまでの宮崎兄弟に関する先行研究を整理しながら、今日の世界において宮崎兄弟がどのように評価出来るのか、さらに宮崎兄弟の子どもたちの活動についても取り上げ、現代における宮崎家の思想の価値を描くつもりです。

今後も、「資料館だより」を通じて、その成果の一部をお伝えしていきますので、どうぞご注目ください。

▼今回調査依頼を受けた史資料の一部



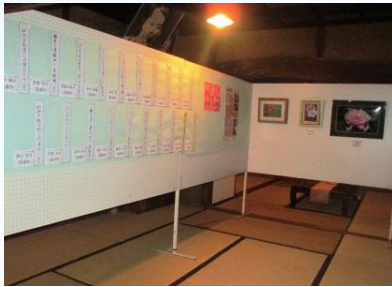
・ 4/12 牡丹茶会

暑く感じるほどの陽気の中、第21回目の牡丹茶会が開かれました。荒尾市内外から多くの方が来場され、およそ130名の方にお茶会に参加いただきました。ピンクや赤の牡丹に彩られた生家で開かれるお茶会はどこか幻想的で、とても素敵な時間となりました。



・ 5/19～6/14 牡丹文芸・美術展

昨年から行っている「牡丹文芸・美術展」ですが、今年も生家を彩った牡丹を題材に、市民の方々から写真・絵画・俳句の3部門より作品を出品して頂きました。



・ 6/5 平成27年度 荒尾市宮崎兄弟の生家施設運営委員会

平成26年度の事業報告・決算報告とともに、平成27年度の事業計画（案）・予算案の報告を行いました。委員からは、小学生や中学生をはじめ、市内外の方にも広く宮崎兄弟について、また生家施設関連行事について知っていただくため働きかけるべきことなどが提案されました。

・ 7/29 宮崎兄弟資料館 夏休み子ども教室／夏休み少女俳句教室

夏休み中の子どもたちに郷土について知ってもらうきっかけづくりをしようと昨年からはじめた「夏休み子ども教室」を、今年も実施しました。



今年は、例年宮崎兄弟の生家で開催されている「夏休み少女俳句教室」といっしょに開催

しました。この「夏休み少女俳句教室」は地元の子もたちが俳句に親しむためにということで、荒尾市俳句協会が主催しているもので、宮崎兄弟について勉強してもらって俳句に活かして貰えればという思いから実現したものです。俳句協会の会長さんいわく、「生家は季語に溢れていて子どもたちが俳句を詠むのにとっても素敵な場所」だそうです。紙芝居「宮崎兄弟ものがたり」で宮崎兄弟について紹介した後、資料館にて兄弟たちにまつわる史資料を実際に見てもらいました。

子どもたちが詠んだ俳句を御紹介します。

せんぷうき ぐるぐるまわる 風あたる

(荒尾第一小2年 栗山菜緒)

ほしまつり 日本語話す 中ごく人

(荒尾第一小2年 田中陸翔)

試合中 せみの鳴き声 きこえてる

(荒尾第一小6年 栗山透真)

かやぶきの やねにはえている なつのこけ

(平井小2年 石橋正教)

あまがえる とくぎはやっぱり 平泳ぎ

(府本小4年 井上桃羽)

おにごっこ とんぼがとんぼ つかまえた

(府本小4年 古閑花音)

黒とかげ 石にかくれて しまいけり

(府本小4年 硯川天海)

夏の蝶 暑くて地面を 飛んでいる

(府本小5年 比屋根好美)

蜘蛛の糸 太陽ピカリ 光ってる

(府本小6年 木下夏鈴)

夕焼の まっかに雲仙 そめている

(府本小6年 井元若菜)

夕方の 雨があがると 円のにじ

(府本小6年 井上怜紗)

夏の蝶 ゆらりゆらりと どこへ行く

(府本小6年 荒尾舞)

とうてんきよ 木より大きい 入道雲

(中央小4年 井原美沙希)

夏の朝 太陽まぶしく 目がさめる

(中央小4年 池末藍香)

孫文の かけじくのもと 夏の朝

(荒尾清里小4年 米井千織)

ふうりんの すーっとひびく すずしい音

(長洲清里小5年 馬淵実幸)

せみなくよ 大きな声で げんきよく

(大牟田玉川小3年 中島寿人)

朝の草 天道虫が めれていた

(大牟田玉川小6年 中島遥)

かやぶきの やりかえ足場 せみしぐれ

(海陽中2年 田中誘一)

真っ青や 雲一つない 夏の空

(海陽中2年 北原小太郎)

朝早く 窓を開けたら せみ時雨

(荒尾四中1年 彌永愛美)

川遊び とびこみ鼻に 水入る

(荒尾四中2年 荒尾さち)

休けいの ジュースの水滴 道に落つ

(荒尾四中3年 荒尾あみ)

・9/26 第10回 音と光の祭典



今年で10回目を迎えた音と光の祭典。今年は、この記念の年にふさわしい音楽ステージをはじめ、海陽中学

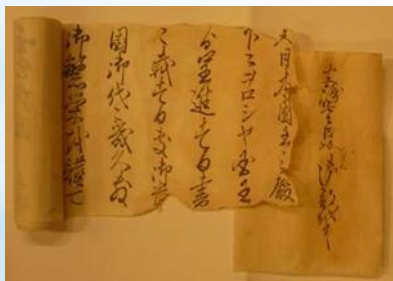
校の吹奏楽部によるオープニング、荒尾第一小学校の子どもたちの紙芝居の発表や子ども神楽など、次々と魅力ある出し物が披露され、参加者も約1,400名と会場はとても盛り上がりしました。日が暮れると、竹燈籠のほのかな明かりが生家施設を包み、空には綺麗な月が輝いて、とても趣深い雰囲気がありました。

資料紹介 ②

オロシヤ国王書和解

文化元年(1804)

年、ロシア帝国の外交官レザノフ率いる遣日使節が長い航海の末、長崎へ入港しました。その際、レザノフ長崎奉行にロシア皇帝からの交易を促す国書を渡して



います。この「オロシヤ国王書和解」は、この国書を翻訳したもので、幕府が編纂した対外関係資料の中に収録されています。対外関係のあり方が問われ始めた開国前夜のこの事件に関する資料が、どういう経緯かは不明ですが、玉名郡代を経て宮崎家に渡されています。宮崎家が代々就いた「外聞(とぎき)」という役職柄、得たものなのか、全国的に見ても珍しい資料です。

※外聞：情報収集の任務のこと。

寄託 埼玉県 宮崎明氏

＜今後の予定(10月1日～)＞

- ・JR九州歴史探訪ウォーキング大会(10月3日)
- ・第3回荒尾市史講演会(10月31日)
- ・企画展「宮崎世民展」(11月3日～12月20日)
- ・滔天忌俳句大会(12月6日)
- ・文化財防火デー(防火訓練、1月下旬予定)
- ・企画展「孫文と荒尾」展(2月初旬～開催予定)
- ・春の華展(3月予定)

※詳細については荒尾市教育委員会(☎0968-63-1681)までお問合せください。

※皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております！

～編集後記～

今年度の上半期は心配事が絶えない日々でした。全国的に大雨や台風などによる被害が多く見られましたが、宮崎兄弟の生家施設も例外ではありませんでした。生家のかやぶき屋根の総ふき替え工事が大雨のために遅れたり、資料館で一部雨漏りが生じたりと、次々と問題が発生したからです。天候はどうしようもないとは言え、文化財を守るという役割を思えば、雨が降るたび気が気ではありませんでしたが、無事に工事が終わり、地域と生家の連携イベントである第10回音と光の祭典で、多くの市民の方に綺麗な屋根になった生家を見ていただくことが出来たことは望外の喜びでした。宮崎兄弟の生家施設も開館から23年を迎え、施設のあちらこちらに経年による劣化が見られるようになってきました。しかし、私たちの世代まで大事に守ってきた先人の思いを裏切らないためにも、そして次世代へとこの郷土の宝を継承していくためにも、引き続き、計画的に整備を進めていきたいと考えています。

また、宮崎兄弟研究事業もいよいよ折り返しの時期に突入しました。宮崎兄弟の思想と活動を広く周知すること、彼らの功績にもとづくさらなる文化事業の発展をめざして、これからも企画展をはじめ、国内外の孫文関連施設との交流・連携の促進等もはかり、研究成果を資料館展示や国際交流促につなげる活動を進めていきたいと思っています。

～次号予告～

今回の「宮崎兄弟資料館・館報」4号は、2016(平成28)年3月に発行予定です。

内容は、

- (1) 宮崎兄弟研究事業 経過報告④
- (2) 生家だより No.4
- (3) 資料紹介③
- (4) 施設紹介①

を予定しております。その他、何か掲載内容についてご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: mai.33413@city.arao.lg.jp

(担当: 野田【荒尾市教育委員会】)